



29 木入道の愛宕神社

創建は不明。
祭神は、火の神様・鍛冶の神様のカグツチミコトである。
社殿には、三本足のカラスを彫りこんだ扁額がある。
隣接する駿馬神社とともに、明治42年（1909年）駿河稲荷神社に合祀されている。

28 大龍山翁松寺跡

高山の端光寺の末寺で曹洞寺。
永正10年（1513年）に端光寺42代の真翁慶観和尚が開山したとされる。
本尊は大黒天であったとされる。
明治初期の廃仏毀釈で廃寺となり、現在は木入道公民館奥の墓地に僧の墓が数基残るのみである。



31 梶谷の駿河稲荷神社



応永13年（1406年）創建の棟札があるが、それ以前の13世紀頃、大隅守護・名越氏の代官・肥後氏が当地へ赴任するとともに、一族の氏神として勧請したことが始まりと考えられる。
祭神は、倉稻霊命、大田姫命・大宮姫命とされ、古くから五穀豊穡・諸業繁盛の神様として信仰を集めた。旧村社である。

石祠の銘に『明治十七年三月二十五日、駿馬神社』と刻まれている。



30 木入道のはやまごん



34 梶谷の田の神

※梶谷公民館内保管

表情豊かできれいな作品であり、作者は山下家六地蔵を建立した方と同一の可能性が有る。



33 梶谷の水神

駿河稲荷神社への道の曲がり角



32 梶谷の古石塔

地元の方は薬師どんとよぶ。

36 梶谷城跡

『梶谷城』は古文書等に全く記録されていないが、地形・地名から城跡と推察されている。大崎町史には『鎌倉時代、大隅守護・名越氏の代官であった肥後氏が新調堀を治所とした』とあり、その肥後氏が梶谷の台地の南部を非常時の拠点として構え、訓練場としていたのではないかと考えられている。



※梶岡公民館内保管 ※個人所有

39 梶岡の田の神



37 38 梶岡の水神

35 梶谷の山王七神大明神

棟札から、宝暦10年（1760年）に蔵ヶ崎門の名頭甚六という人物が造立したことがうかがえる。
蔵ヶ崎門の氏神として、家内安全・子孫繁栄・牛馬の息災・五穀豊穡を祈願したものと考えられる。※門=薩摩藩の農村において、数戸ごとに編成されていた生産共同体



41 東干草の大歳宮

詳細は不明。
大歳宮の祭神の大歳神（大年神）は、須佐之男命の子で、稲の実りを守る穀物神。
家内安全や五穀豊穡を祈願し祀られたと考えられる。



40 東干草の水神



42 東干草の古石塔群





45 新調堀の水神



44 新調堀のはやまどん



43 新調堀の5体地蔵



46 キリシマドン

薩摩藩内の農村では、霧島山への信仰から『霧島講』が行われていた。
この石祠は、霧島神宮から勧請し祀られたものといわれている。
※講=特定の信仰によって集まった組織



47 月補山桂林寺跡

詳細は不明。
文政7年(1824年)に編纂された『大崎名勝誌』には、以前あったお寺として記されている。
『翁松寺(木入道・曹洞宗)の末寺、永吉村内の新調堀という所に建っていた』とある。
敷地内と考えられる場所には、僧の墓が数基残っている。



49 西千草の水神



※個人所有

48 西千草の田の神



※個人所有



51 柳別府の水神



50 柳別府の田の神
※柳別府公民館内保管



52 柳別府の庚申供養塔

60日に1度の『庚申』の日に徹夜して眠らずに身を慎めば長生きできるという信仰があり、その信仰のもと建てられた石塔である。この庚申供養塔では、庚申信仰の本尊とされる青面金剛と六臂(六本の腕)に持った太陽・弓・矢や足で踏みつけた邪気が確認できる。また、三猿(見ざる・聞かざる・言わざる)も配されている。元文3年(1738年)の銘があり、昭和51年(1976年)に町指定文化財となった。

66 道智城跡

柳別府家の先祖の住居跡が高台にありこれを道智城(堂地)と呼び、その子孫が由来を探索中である。



53 柳別府の薬師どん

柳別府の庚申等の近くに祀られている。薬師信仰の場として建てられていたのであろうが、明治初年の廃仏毀釈によって壊され、信仰の名残をとどめていると考えられている。



57 鷺塚の古石塔
58 鷺塚の六面地蔵



56 鷺塚の田の神
※鷺塚公民館保管



55 下村の田の神
※下村公民館保管



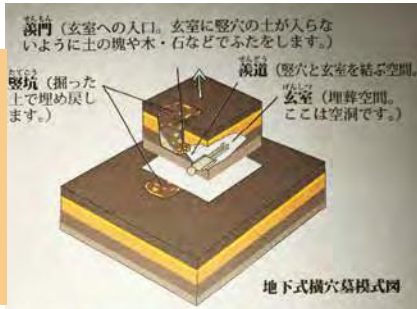
54 下村の水神
柳別府庚申供養塔の西側 50m



61 上鷺塚の田の神
上鷺塚公民館保管

60 鷺塚の地下式横穴墓

昭和 45 年 (1970 年) に発掘調査された地下式横穴墓（古墳時代の南九州独特の墓）である。出土した人骨は女性の骨といわれる。（現在、大崎町郷土資料室に展示されている。）副葬された刀子も発見されているが、詳細は不明。



59 鷺塚の水神
田んぼ際の三叉路



62 鷺塚の観音様

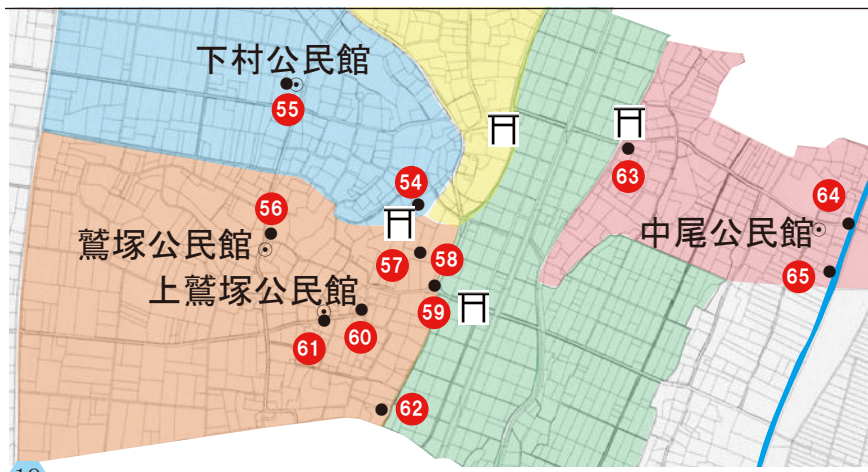
建立の時期は不明。石像は、台座を含めると 160 センチの高さである。柏原と志布志の観音様の兄弟であると伝えられる。昔は広い参道もあり、参詣者も多かったといわれる。



64 中尾のはやまごん
柏原へ通ずる国道わき



63 中尾の水神
中尾より柳別府に通ずる道路わき



65 中尾の田の神

庭の一隅に鎮座するすばらしい芸術作品である。えびす様を思わせる像でもあり左手に杓子、右手に鈴をもっている。信仰性の濃い造形であるために、独特の生命感があふれておりいかにも信仰のもつ迫力が表現されている。

大正3年（1914年）1月12日の桜島大噴火後、旧大崎村は被害を受けた牛根村（垂水市）、百引村（鹿屋市輝北）、東桜島村、西桜島村の住民114戸594名を受け入れました。その受け入れの地となったのが野方の東川、角堂、岡下、永吉の牧、中沖でした。また昭和21年（1946年）1月の昭和噴火でも桜島から野方の桜野集落に多く人が移り住みました。桜野は桜島の「桜」と野方の「野」とってつけられた地名であると言われています。

大正噴火では特に中沖には縁故者を頼って移住した人が多く、しばらくは小作農で生計を立てていました。中沖地区に小字名として各地に残っている「堀」は、旧藩時代の麓郷士の開拓地であり、土地の範囲を示す名残です。

2 高架水槽



昭和53年の上水道第4次拡張で中沖地区の水压確保のため計画され、造られたもの。中沖地区は標高約50mの台地で、高さ22mの水槽から自然流下方式で配水されている。



1 中沖東上の田の神

昭和27年4月20日に奉納された。

3 中沖東の田の神

時期不明。珍しい型の田の神で、笠の形と右足を立ててひざにした座り方に特徴がある。



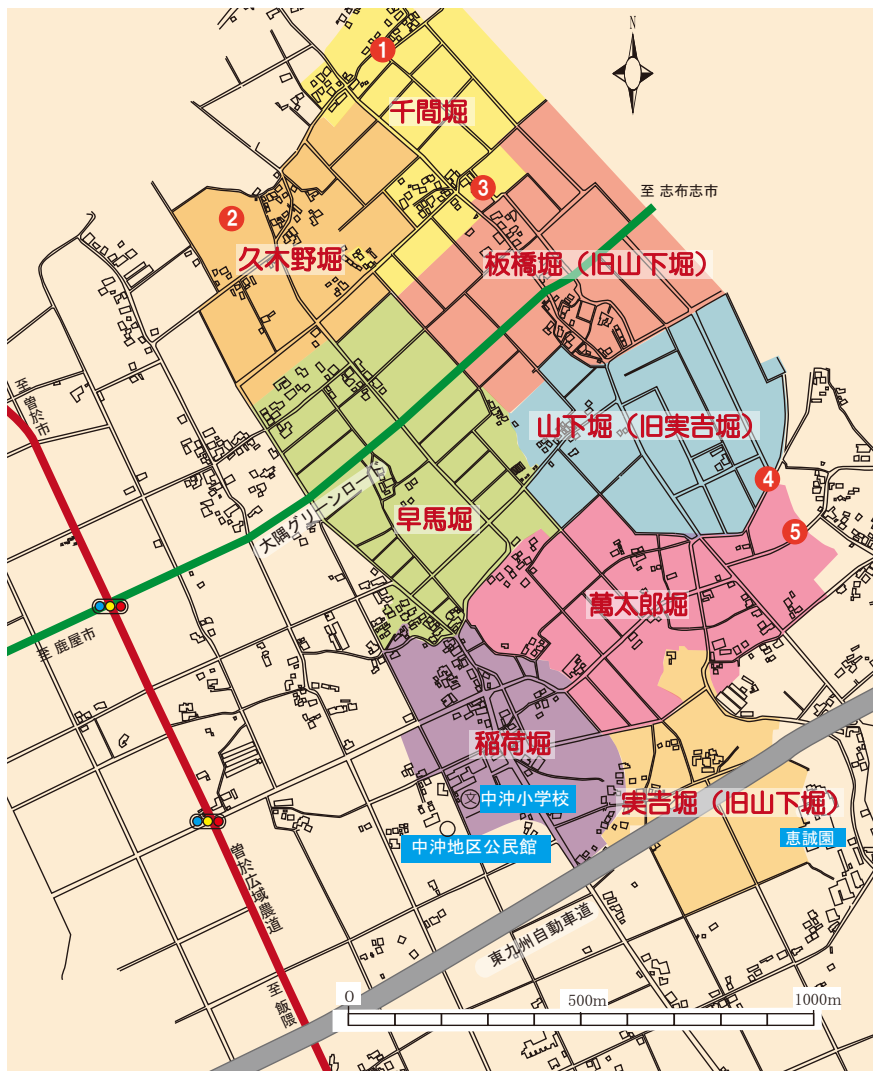
5 ツリーター

緊急の時や会合の時間を集落住民に知らせるための施設。やぐら上部に鉄板が吊られていて、これを鳴らしていた。「吊り板」からこのような呼び方になったのではないかと推測されている。昭和35年3月作製



『寄贈 大野仁次郎 八十八才記念 昭和三十五年一月』と銘がある。

4 正和の田の神



中沖棒踊り

大正時代の桜島大噴火により土地を失った垂水牛根地区の人々が、昭和になって生活が安定してきた頃、中沖西地区の方々から牛根地区に伝わる棒踊りを本地区で復活させたいと願い、青年団等を中心に踊られてきたものである。

平成7年、中沖小PTAが県PTA活動委嘱公開を受ける際、そのアトラクションとして子供たちによる棒踊りを披露した。これがきっかけとなり、伝承に取り組むようになった。学校に「中沖棒踊り保存会」の事務局を置き、継続して学校教育活動の中で棒踊りを伝承していける体制を整え、さらに「地域の郷土芸能は地域で守り育てていく」ことを目標に、校区の子ども会連絡協議会が中心となって伝承活動を行っている。さらに、中沖校区の小中学生による地域塾「中沖キッズ地域もりあげ隊」を結成し、主に中沖棒踊りを各地で披露するとともに、後輩への継承を行うなど、地域活性の一翼を担っている。



中心の子が鎌、左右の子が6尺棒をそれぞれ持ち、前後3人ずつの計6人が1組となって踊る。鎌と棒を打ち合う所作は、稲を刈り取る様を表し、五穀豊穡の感謝の気持ちを捧げていると伝えられる。また、棒を打ち合う音で厄払い、無病息災を祈っていると伝えられる。唄は3番まであり、同じ動きを繰り返す。

白のハチマキ（カマの踊手は頭にツノをつけて短いハチマキ、棒の踊手は長いハチマキ）と赤の長いタスキは必ず着けると決まっているが、他の色は特に決まっていない。本番の時は、おしろいと口紅で化粧をする。

2022年3月31日発行
発行：大崎町教育委員会
編集：社会教育課
〒899-7305
鹿児島県曾於郡
大崎町仮宿1029番地
TEL 099-476-1111

調査協力：
歴史探学会おおき

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.



国登録有形文化財：都萬神社



国指定文化財：籠菊双雀文様鏡
※都萬神社奉納。大崎町中央公民館保管。